

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会 議 名	令和7年度姫路市介護予防事業施策評価委員会
2 開催日時	令和8年1月14日（水曜日）13時30分～15時00分
3 開催場所	姫路市総合福祉会館 5階 第2会議室
4 出席者又は欠席者	介護予防事業施策評価委員会委員（出席4名） 姫路市（高齢者支援課・保健所健康課・高齢者政策課）
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可・傍聴人：0名
6 議題又は案件及び結論等	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 介護予防事業施策の概要について</p> <p>(2) 介護予防事業施策の実績について</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 姫路市の介護予防事業施策に関する戦略について</p> <p>(2) 今後の介護予防事業施策の運営について</p> <p>① 通いの場への新規参加・継続参加を促進する</p> <ul style="list-style-type: none">・介護予防についての普及、啓発を積極的に行う。・参加の障壁を把握し、いき百グループや会場の情報について、詳細情報を提供できるようにリスト化、マップ化を行う。・交流会等により、他グループとの交流や情報共有を行うことで継続へのモチベーションアップや不安軽減を図る。 <p>② 多様な担い手の充実に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none">・あんしんサポーターの活用促進・あんしんサポーターの活動内容の見直し
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

1 委員会の趣旨説明**2 委員紹介****3 報告事項及び協議事項**

介護予防事業に関すること

- (1) 介護予防事業施策の概要について 【資料 1～2頁】
- (2) 介護予防事業施策の実績について 【資料 3～12頁】
- (3) 姫路市の介護予防事業施策に関する戦略について 【資料 3～12頁】
- (4) 今後の介護予防事業施策の運営について 【資料 12頁】

①通いの場への新規参加・継続参加を促進する

- ・介護予防についての普及、啓発を積極的に行う。
- ・参加の障壁を把握し、いき百グループや会場の情報について、詳細情報を提供できるようにリスト化、マップ化を行う。
- ・交流会等により、他グループとの交流や情報共有を行うことで継続へのモチベーションアップや不安軽減を図る。

②多様な担い手の充実に向けた取り組み

- ・あんしんサポーターの活用促進
- ・あんしんサポーターの活動内容の見直し

4 質疑・意見

- (1) 介護予防事業施策の概要
 - (2) 介護予防事業施策の実績
- } について

委員からの意見・事務局の返答と今後の方針

意見1：通いの場の中断者について、その理由について把握の状況はどうか。

理由により、課題や取り組みも変わってくるのではないかと思う。早期介入により継続できることもある。

→事務局：中断理由について、データでまとめてはいないが、多くは会場の環境(遠い、段差あり等)による継続困難や、病気や怪我による入院・療養、年齢を考え卒業、等の声が多い。
 今後は、年齢や要支援状態であっても、地域でお互い見守りながら参加を続けられるよう取り組んでいく。

意見2：通いの場の実施が長くなり、その分年齢や体調も変化してきているが、当初の指導や自分たちで活動内容を考えて取り組んでいる。はたして、その運動(体操)が適しているのか、方法はあっているのか等不安もあるので、随時アドバイスを受ける機会があればよい。

→事務局：今回の報告にある、リハビリテーション専門職派遣や、運動指導士の派遣により、アドバイスは可能。ぜひ積極的に活用してもらいたい。

意見3：高齢化により高齢者数は増えているが、通いの場の参加者はそれほど増えていないように思う。これについてはどう捉えるか。

→事務局：通いの場の参加に限らず、様々な事業に取り組んでも、参加する人は同じ顔ぶれ。

参加しない人をどう連れ出すかが課題。

接触できない対象者の生活の実態を把握し、公の事業以外のニーズや現状に合わせてアプローチを工夫していきたい。

意見4：介護予防に関して、終活の視点も重要ではないか

終活についてのバックグラウンドを理解したうえで介護予防についての話を進めていくほうがより具体的なものになり健康寿命の延伸にもつながるのではないか。

医師会の介護・医療連携支援センターでも ACP については積極的に進めているところなので、ぜひ活用してもらいたい。

5 協議

(1) 姫路市の介護予防事業施策に関する戦略について

戦略は「通いの場に、80 歳以上および要支援者の参加が増加し社会参加を続けることで、要介護状態への移行を予防し、地域で助け合いながら暮らし続ける高齢者を増やす。」である。

今回、介護予防に向けた自身の社会参加に加え、「地域で支えあいながら暮らす」という互助に向けた取り組みを考えている。

委員からの意見・事務局の返答と今後の方針

意見：フレイルチェックシートのデータの活用について。

参加者の地域ごとの傾向等、うまくデータを分析すれば、戦略の参考になると思うがどうか。

また、フレイルチェックが随時自分のタイミングで簡単にできると、早期に気づきにつながるのではないか。

→事務局：現在、全体の結果の傾向はまとめているが、地域性やその他の特徴について十分評価できていないため、今後、地域での取り組みの戦略の検討に向けてしっかり評価していく。

フレイルチェックシートは、通いの場での実施がメインだが、今年度、公式 LINE でもセルフチェックが随時できるよう掲載しているので、活用してもらえよう周知に努めたい。

(2) 介護予防事業施策の運営について

①通いの場への新規参加・継続参加を促進する

方策1

- ・介護予防についての普及、啓発をあらゆる機会をとらえ、積極的に行っていく。
- ・通いの場の参加の障壁を把握し、会場の情報について、詳細情報を提供できるようにリスト化、マップ化を進める。

委員からの意見・事務局の返答

意見：実際に会場に行ってみて段差があること、靴を脱ぐ必要があること、会場が2階等を知り中断につながるケースもあるため、情報をリスト化するのはよいこと。マップ化の話もあったが、どのようなイメージのものか？

事務局：ひめマップ（別添資料参照）について説明。

現在、家島、野里、大津でモデル的に実施し始めており、その後市全域に展開していく予定。

相談の場等で情報提供できるものと、タイムリーに自分で情報を集められるものの双方について

て整備していく。

意見：これからの社会 ICT 化も重要だが、実施にどれだけの高齢者がデジタル化についていけているのかが問題。

数年後の高齢者はデジタルへの対応が可能と思われるが、現在の高齢者はデジタルへの対応の格差、それに伴う情報格差は避けられないので、戦略が間違っているとは思わないが配慮は必要。

方策 2

- ・継続へのモチベーションアップや不安軽減を図るため、交流会の開催等により、他グループとの交流や情報共有の機会を設ける。

事務局から

事務局：交流会での情報交換や好事例の共有は、やはり好評であったため、開催の規模等は参加者の意見も踏まえ検討は必要だが、継続していきたい。

意見：姫路は校区単位でのつながりが強い印象がある。

普及啓発についても、校区単位で企画すると反応がよかったように思う。

②多様な担い手の充実に向けた取り組み

方策

- ・あんしんサポーターの活用促進
- ・あんしんサポーターの活動内容の見直し

担い手不足等、今後の地域課題の解決に向け、介護保険の総合事業について、生活支援のサービスの充実に向けて見直しを行っている。

介護支援ボランティアについても、現在検討中ではあるが、住民主体のサービスとして、運営や活動内容等の見直しによるサービスの充実に必要がある。

委員からの意見・事務局の返答

意見：ゴミ出し等、実施困難な家事を支援していると思うが、単純にお願いしてしまうと、本人はフレイルや介護度の悪化につながるのではないかと。すべてを支援してもらうのではなく、本人ができるところは一部一緒に作業する等の工夫で、虚弱や重度化の予防ができればよい。

自分で気づき、自ら活動に取り組む意識の改善や持続可能な地域づくりが必要。

事務局：現在は、ヘルパー業務の横出しというイメージが強いので、利用者は「してもらおう」という意識が強いと思われる。

今後は、利用者の介護予防や見守りの視点も取り入れながら事業を検討していく。

6 閉会